

平成29年度 自己評価・学校関係者評価書（木城町立木城中学校）

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策と手立て	自己評価		自己評価結果の考察・分析 及び改善策等	評価委員 の評価	評価委員からの意見
			評価	総合 評価			
1 学力の 向上	(1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着及びそれらを活用する能力の育成を図るとともに、主体的に学ぶ態度の育成に努める。 ・全国学力学習状況調査・みやざき学力調査のA問題の校内平均が全国・県平均以上 ・標準学力調査(NRT)の学年平均が前学年より向上 ・全国学力学習状況調査・みやざき学力調査のB問題の校内平均が県平均と同程度以上 ・3年生の実力テストにおいて、地区の平均を上回る	・全国学力調査やみやざき学力調査等対外テストの結果については、教科別に分析し、指導方法の工夫・改善に生かす。 ・学力に応じた指導の工夫や授業づくりを推進する。 ・学習の遅れがちな生徒への、補充的な学習の時間の確保と指導の充実に努める。	4		・全国学力調査、みやざき学力調査、NRT、3年の実力テスト等、対外テストの結果から、2・3年生については、いずれも前学年より学力が向上しており、国や県、地区の平均を常に上回っている状況である。	4	全国学力調査等の結果に、指導の成果が現れていると思う。 今後も、よい学習習慣を身に付けた生徒の育成に努めてほしい。
	(2) 望ましい学習習慣の確立に努める。 ・保護者アンケートにおける「1日平均2時間以上の家庭学習の項目」が指標3以上 ・生徒アンケートにおける「授業の受け方の自己評価」が指標3以上	・授業の受け方、宿題やフリ宅の取組、忘れ物等についての日々の指導を徹底し、継続する。 ・家庭学習における「学習のポイントや内容、方法」をもとに、生徒への指導と保護者への啓発を行う。	3		・生徒は授業に対して、はじめに前向きに取り組んでいる。 ・家庭学習の時間や内容については今後も指導を続けていく必要がある。		
	(3) 教師の授業力向上に努める。 ・授業の4つのチェックポイントを意識した授業実践の実施率80%以上 ・主体的で対話的な学びの場の工夫についての実践率50%以上	・支援訪問のフィードバック等を活用して、個々の職員が授業の改善に取り組む。 ・主題研究を通して、主体的で対話的な学びの場の工夫について、共通理解を図り、各教科で実践を積み重ねる。	3		・支援訪問や校内研究を契機に、各自が授業改善に取り組むことができた。 ・個々の取組を全体で共有し、学び合い、高め合うことで、全体の授業力向上を図りたい。		
2 社会性 や豊か な人間 性の育 成	(1) 基本的な生活習慣の徹底に努める。 ・保護者アンケート及び教職員自己評価における「基本的な生活習慣に関する項目」が指標3以上 ・生徒アンケートにおける「学校や家庭でルールやマナーが守れた」とする生徒の割合が90%以上 ・無遅刻の生徒の割合が90%以上	・学校の規則や社会のルールについてしっかり理解させた上で実践させる。 ・生徒会と協力した、あいさつ運動等の取組を通して、あいさつのできる生徒を育成するとともに、自主的・自律的に行動できる集団づくりに努める。	4		・基本的な生活習慣については、生徒自身はもとより、教員並びに保護者も、よく取り組めたと感じている。 ・特にあいさつについては、生徒会の取組等もあり、成果が出ている。	4	道徳教育や人権を尊重する教育、ボランティア活動、福祉体験活動等を通じて、人との関わりを大切に育てる生徒の育成に、地域と連携して取り組んでほしい。 あいさつの声は、確かに以前より大きくなっていると感じている。 2年生の職場体験学習では、生徒の取組がよく、クレーム等もなかったようである。成果が上がっているのではないだろうか。
	(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成を図る。 ・教職員自己評価における「望ましい人間関係に関する項目」が指標3以上 ・保護者・生徒アンケートにおける「人権教育・心の教育に関する項目」が指標3以上 ・いじめの調査及び教育相談の計画的実施	・道徳教育の充実を通して、思いやりの心を育成する。 ・ピア・サポート活動の実践を通して、学級や学校に、学び合い、助け合い、支え合うの風土を醸成する。 ・いじめの調査や教育相談を定期的に行い、早期発見・早期対応に取り組む。	4	4	・思いやりの心や、よりよい人間関係づくりについては、生徒、保護者、職員ともに良好であるという結果が得られた。 ・アンケートや教育相談の実施により、いじめの未然防止につながることができた。 ・高校や職業のことについて考えさせる場を設定することで、夢や目標をもたせ、それを学習や生活面の指導に生かすことができた。 ・1年生の意識を高めることが課題である。		
	(3) 将来の社会貢献や自己実現を目指すキャリア教育の充実に努める。 ・キャリア教育に関する生徒アンケートにおいて、昨年度より結果が向上 ・保護者のアンケートのキャリア教育の項目が、(指標3をめざし)各学年とも昨年度より向上	・学級活動を中心として、3年間を見通したキャリア教育・進路指導を推進することで、生徒一人一人の自己実現を支援する。 ・高校説明会やオープンスクールへの積極的参加を促すとともに、職場体験学習等を通して進路についての意識を高める。	3				
3 の体 力推 進の 向上 と健 康教 育及 び安 全教 育	(1) 生徒の体力の向上に努める。 ・新体力テストにおける、本校生徒の課題である瞬発力と柔軟性を向上させる。 ・保護者アンケートにおける「体力向上の項目」が指標3以上 ・生徒アンケートにおける、体力向上への意識をもち努力している生徒80%以上	・新体力テストの結果を分析し、それをもとに、体育の時間を中心に、体力向上の取組を推進する。 ・部活動キャプテン会の指導を通して、部活動の活性化を図る。	3		・瞬発力は改善できたが、柔軟性は改善できなかった。今後も継続して取り組みたい。 ・部活動や行事等を通して、体力向上への意識を育てることができた。	3	今の若者にとって、心と体の健康について、正しい知識を身に付けることが課題と考えている。引き続き、指導と啓発をお願いしたい。
	(2) 健康教育や食育の推進に努める。 ・健康教室や定期的な実施と内容の充実 ・むし歯治療率100% ・給食残量調査における「食べ残しが少ない」生徒が80%以上 ・毎朝朝食をとる生徒90%以上	・学校保健委員会や薬物乱用防止教室、歯みがき指導等の実施を通して、健康に対する意識を高めるとともに実践力を育成する。 ・保健だより等を通して、家庭と連携した指導を推進する。	4	3	・健康教室の実施や日常の保健指導、家庭と連携した指導により、目標をほぼ達成し、生徒は学校生活を健康的に送ることができた。		
	(3) 安全教育の推進に努める。 ・安全管理徹底(安全点検毎月実施) ・避難訓練の年3回実施	・校内の安全点検を毎月実施し、安全面での環境を整備する。 ・有事に的確な行動がとれるように、避難訓練の内容を工夫する。	3		・安全点検や避難訓練等の定期的な実施により、大きな事故もなく、生徒の安全を確保することができた。		
4 連携 が強 れた 学校 づく りと 家庭 ・地 域と の	(1) 地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。 ・学校の行事や授業等における地域・保護者との連携の推進 ・参観日の出席率65%以上 ・地域における体験活動(職場体験や奉仕的活動等)の実施と内容の充実	・地域と連携した教育活動を推進するとともに、PTA活動の充実を通して保護者との連携を深める。 ・地域における体験活動の充実を通して、地域を愛し、地域に貢献しようとする意識を高める。	3		・地域素材や人材を活用、地域を知る学習や職場体験学習等を通して、ふるさとを愛し、ふるさとに学ぶ教育を推進することができた。	3	恵まれた教育環境を利用し、小学校と中学校の共通の課題に、PTAや地域と連携して、特色ある学校づくりをめざしてほしい。
	(2) 小中学校連携教育の推進に努める。 ・組織体制の見直しと改善 ・小中学校合同会議の充実(年間10回実施) ・小中共同実践項目の設定と取組の改善・充実	・小中学校9年間の見直しをもった教育の推進のために、合同研修会や授業の相互参観等を通して連携を深める。 ・あいさつ運動や福祉体験活動等の小中連携活動の充実を図る。	3	3	・小中合同研究会等を通して、児童生徒の学習面や生活面の共通理解を図る事ができた。 ・あいさつ運動や福祉体験活動等の共通実践を通して、児童生徒間の交流を深めることができた。		
	(3) 積極的な情報発信に努める。 ・学校だより等による情報発信(毎月1回以上) ・Webページによる情報発信(週1回以上の更新)	・保護者等に対して、学校だより等、各種通信を積極的に発信する。 ・Web上でも、学校の取組や生徒のがんばる姿を広く発信する。	3		・本年度はWebページによる情報発信を積極的に行った。地域や保護者の「知りたい」に応えられる取組をしていきたい。		